

平成27年度

# 浜田教育事務所だより

第54号 平成27年7月10日



◆調整監あいさつ（P1）

◆派遣指導主事・社会教育主事より～浜田市・邑南町～（P5～7）

◆道徳教育（P2, 3）

◆幼児教育との連携（P8）

◆生徒指導専任主事より（P4）

## 学び続ける

### 調整監 鳥居 正嗣

1学期末を迎え、各学校では年度当初の計画や取組について確認し、成果を共有するとともに、2学期からの取組を充実していくための方策について追加したり修正したりする時期になりました。日々、子供たちの幸せを願って取組を続けている皆様方に心から敬意を表します。



さて、5月1日から6月24日にかけて、管内の全ての小中学校（76校）を訪問させていただき、特に「人材育成上の課題と方策」についてヒヤリング及び情報交換をさせていただきました。ご多忙の中、丁寧な対応をいただきありがとうございました。

島根県教育委員会では「第2期しまね教育ビジョン21」の中で、島根の教育目標を達成するための基盤「信頼される学校づくり」における今後の方向性の一つに学び続ける教員の育成を掲げています。また、もう一つの方向性として学校マネジメントの確立を掲げています。このことも学び続ける教員の育成の延長線上にあります。そして、これらを受けて「島根県公立学校教員人材育成基本方針」を策定しています。

この「島根県公立学校教員人材育成基本方針」では、キャリアステージに応じて求められる姿や育成する資質能力を示しています。改めて以下に掲載しておきます。なお、求める姿については、誌面の都合上、発展期のみを掲載します。発展期以外の方は、「島根県公立学校教員人材育成基本方針」で再確認してください。

#### [自立・向上期]

新規採用時から経験年数およそ6年目まで

##### 【資質能力】

向上心，児童生徒理解，コミュニケーション力  
授業や学級経営等の実践的指導力など

#### [充実期]

経験年数およそ7年目から11年目まで

##### 【資質能力】

探究心，専門的な知識・技能，同僚性など

#### [発展期]

経験年数およそ12年目以上

##### 【求める姿】

- ①様々な教育実践により，教科等の専門的知識・技能及び態度を高めていく。
- ②主任やミドルリーダーとしての自覚と責任を持つとともに，学校経営方針や学校教育目標等を理解し，企画力や調整力を発揮して教育活動を円滑に進めていく。
- ③豊富な経験から他の教員の役割分担や業務の進捗状況を把握・調整し，適切な助言や援助をしながら，後進を育成していく。

##### 【資質能力】

高度な専門知識・技能，企画力，連絡・調整力  
人材育成力など

#### [主幹教諭]

##### 【資質能力】

企画力，連絡・調整力，連携・折衝力，人材育成力など

#### [管理職]

##### 【資質能力】

高い教育理念，広い識見，創造的な企画力，学校マネジメント力など

自分自身のキャリアステージや次のキャリアステージにおける【求める姿】を十分に意識し，力量を高めていく実践が充実していくことを期待します。また，各学校において，共通の目標に向かって協力・協同した実践がより充実し，子供たちはもちろんのこと，その学校にかかわる全ての方々の幸せが実現していくことを願っています。

# 引き続き “ 道徳教育の抜本的改善・充実 ” をめざしましょう(^\_^)

～ 完全実施まで あと 小学校 2 年半, 中学校 3 年半 ～

学校教育スタッフ・指導主事 堀江 真佐邦



## ＜ 昨年度から今年度当初にかけての動き ～ 管内の取組から ～ ＞

◇昨年度の『浜田教育事務所だより 第50号(平成26年9月17日)』では、「道徳教育の今後&今やりたいこと ～ 指導力アップを目指して～」と題して、「道徳教育の今後について」と「今やりたいこと」という内容を書かせてもらいました。

そのうちの“今やりたいこと”では、“校長先生の方針の確認”、“道徳教育推進教師を中心とした協力体制の点検”、“全体計画(別葉)の作成”、“魅力ある授業づくりのための切磋琢磨”と項目立てをし、学校教育全体を通した道徳教育のさらなる推進と授業の改善を、学校をあげて取り組んでいただくようお願いしたところです。

◇あれから半年以上経ちました。昨年度は、大田市立第一中学校・大田市立久屋小学校・大田市久利保育園において“道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業”を受けていただき、実践をしていただきました。その概略については、今年度当初、各校に配布しているリーフレット『島根県の道徳教育(推進地域の実践事例集)』に掲載していますので、是非ご覧ください。



『しまねの道徳教育(推進地域の実践事例集)』より表紙と管内指定地域のページを抜粋

◇年度末の3月には、道徳教育郷土資料『しまねの道徳(小学校中学年)』を発行・配付しました(一昨年度発行の『しまねの道徳(小学校高学年)』に続きシリーズ2冊目)。管内からは、「石見神楽面作りの喜び 面師 柿田勝郎さんの思い」(浜田市)と「たった一人のお医者さん 遠藤武さんの決意」(美郷町)の2つの資料を作成・掲載しました。「私たちの道徳」とあわせ、どうぞご活用ください。

◇先日の6月19日(木)には、島根県立大学において、文部科学省初等中等教育局教育課程課：赤堀博行教科調査官による講演会がありました。予想を大幅に超える150名以上の参加者となりました(会場変更等ご迷惑をおかけいたしました)。道徳教育への関心の高さがうかがわれた講演会でした。赤堀調査官には、9月にも島根県(隠岐、松江)に来ていただく予定です。



『しまねの道徳(小学校中学年)』と『しまねの道徳(小学校高学年)』の表紙

< 国の動き・中央研修・講演会から >

◇日本全体に目を向けると、今年に入ってからだけでも右表のような動きがあり、まさに“道徳教育過渡期スタートの年、”といった感じがします。

平成27年	2月	学校教育法施行規則等の一部改正に伴うパブリックコメントの実施
	3月	学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定、小学校学習指導要領の一部を改正する告示、中学校学習指導要領の一部を改正する告示及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部を改正する告示の公示並びに移行措置等について（通知）
	7月	“学習指導要領解説総則編（抄）及び特別の教科道徳編”の文部科学省ホームページ上での公開

◇そんな中で、5月に筑波で行われた道徳教育中央研修の場でも、前述の講演会においても、赤堀調査官は一貫して次のことを言っておられます。

一 道徳教育を充実させるためには 一

右にあるように、“学校のカリキュラムマネジメント力”，“学校の組織力”，“校長のリーダーシップ”が大切であること。

道徳教育を充実させるためには

学校が主体的に子供の実態や地域の実情など様々な事項を的確に把握して、育てたい子供像を明らかにして目標を設定し、計画を立てて、教職員が共通理解、共通実践できるようにすること

学校の  
カリキュラム  
マネジメント力

学校の組織力

校長の  
リーダーシップ

『道徳教育中央研修：講義1「今求められる道徳教育の充実を目指して」プレゼン』より抜粋

一 “特別の教科道徳：道徳科”の実施に向けては 一  
下表の6つのことを意識して行うこと。

“特別の教科道徳：道徳科”の実施に向けて各校で行うべきこと	
1	道徳教育の目標を明確にすること
2	重点内容項目を明確にすること
3	重点内容項目に係わる具体的な指導の機会,時期の明確化
4	道徳教育の全体計画及び別葉の作成
5	道徳の時間の年間指導計画の整備
6	道徳の時間の確実な実施 <small>（実践例：「第〇回道徳」と板書する／4つの内容項目別に分けて“足跡”を教室掲示するなど）</small>

< 道徳の時間(特別の教科道徳：道徳科)を さらに充実したものにすること >

◇今年度に入ってから学校の訪問では、今まで以上に、子供たちが主体的に授業に参加している様子を見ることが多いです。各校の意識が高まっている証ではないでしょうか。読み物資料を基にしながら、自分の考えをOUTPUTし、人の思いや考えをINPUTし、自分の考えを深めている様子を見ることができる道徳の授業が益々増えていくといいなと思います。

今後も引き続き、各校における“道徳教育の抜本的改善・充実”が進むよう、とりわけその要である道徳の時間が充実するよう、引き続いてお手伝いをしていきたいと思っています。

< 現行の道徳の時間の目標（抜粋） >

**小**…道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

**中**…道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。



< 特別の教科道徳：道徳科の目標（抜粋） >

**小**…道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

**中**…道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

## もうすぐ夏休み

### 生徒指導専任主事 大達 高弘



大好きな学校を離れ、教育事務所に勤務し、あっという間に3か月が過ぎました。学校現場とは違って学期ごとの区切りがありませんので、「もうすぐ夏休みだ!」という気持ちの高ぶりはありませんが、それでも「大好きな夏だ!」と思うと、いつも以上にテンションが上がります。(余計に暑苦しいですね。すみません。)

私にとっての大きな仕事の一つに生徒指導関係の学校訪問があります。今年度は浜田市内と邑南町の小学校を回りますが、1学期に計画された訪問はほぼ終わりました。お忙しい中でお時間をつくっていただき、授業参観や協議を通してたくさんのことを学ばせていただきました。と同時に、それぞれの学校において子供たちからは元気を、先生方からはやる気を、そして学校の建物からは温かさをいただき、素敵な時間を過ごすことができました。改めて「学校っていいなあ」と実感しました。訪問で感じたことや協議したことを活かし、各市町の教育委員会と連携を図りながら、常に学校のことを一番に考えて、今後の事業や取組を進めていきたいと思えます。訪問させていただいた学校の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

先日、ある方とお話をする機会があり、その方が【学校の先生は毎日子供とあいさつを交わす。

その時に、あいさつだけで終わってしまっていることが多いような気がする。あいさつのあとに、何か一言「この前の〇〇よかったねえ。」「〇〇をがんばってるね。」などの言葉をかけることができるかどうか教師の力量のような気がする。】という話をされました。私はこの時、直前にあった研修会で聞いた【教師の感性】という言葉が頭に浮かびました。感性とは【気づき、子供たちのちょっとした変化を感じ取るアンテナのようなもの】だそうです。教師は常にこの感性を磨き続けなければいけないという内容の講演でした。あいさつのあとに子供に一言言葉をかけるためには、その子供のことを知っていなければなりません。つまり、普段から感性を発揮して、その子の変化に気づき、感じ取らなければならないことだと思うのです。教師の授業力を高めることの必要性は誰もが理解しているところではありますが、私は、この感性を高める・磨くことも教師としての大切なことのような気がします。感性に優れた指導者の近くにいる子供たちは、きっと自己有用感・自己肯定感が高まり、自分を大切にし、そして他者を大切にすることができる子供へと育っていくのではないかと考えます。

もうすぐ夏休みです。各学校での約束を徹底しながら、安全で有意義な夏休みとなるよう、子供たちへの積極的な生徒指導をよろしくお願ひします。また、夏休み中も、先生方がチームプレーで生徒指導をすすめることができるよう体制を整えておきましょう。研修等もあり、なかなかゆっくりと休むことはできないかもしれませんが、しっかりと心と体を充電され、ご自分の感性を高め・磨くための素敵な夏休みにしてください。

私も、2学期訪問予定の学校、研修会等でお会いする先生方に元気をお届けすることができるよう、この夏にしっかりと感性を高め・磨きたいと思ひます。

## 今年も「しまね数リンピック」開催します！

平成27年10月25日(日)、第7回「しまね数リンピック」を開催します。小学校5年生から参加可能です。詳しいことは、各校の担当の先生にお聞きください。ちなみに昨年度は、県内全体で1,000人を超える参加者がありました。

今年も多くの子供たちが参加してくれることを期待しています。  
(担当:堀江)



## 各市町の取組から ～浜田市～

### 社会教育委員の会に関わって

#### 浜田市教育委員会 派遣社会教育主事 大石学

社会教育委員ってご存知ですか？浜田市の社会教育委員は現在13名で構成されています。毎月1回、社会教育委員の会を開催し、社会教育に関わることについて、委員の皆さんの意見をうかがい、社会教育行政に反映をしています。今までに、浜田市の社会教育のあり方やこれからの公民館について提言をしてもらっています。毎回、課題に対して真剣に協議をしていただき、浜田市の社会教育を支えてもらっています。

昨年度は「浜田市の家庭教育のあり方～つなぐつながる家庭教育支援～」について意見をうかがいました。その中には以下の4つの柱があります。

- 1 学びの機会の充実
- 2 支援のネットワークをつくる体制づくり
- 3 家庭と地域のつながりをつくる取組の推進
- 4 家庭での生活習慣づくり

それぞれに具体的な取組についてふれてもらっています。この意見を受けて、予算付けや具現化のスケジュール等を考え、浜田市の家庭教育支援を推進していくこととしています。さらに、今年度は新しい教育振興計画に社会教育をどのように反映させていくか提言していただくことになっています。現在議論を重ね、最終的な構成にとりかかっています。

また、自分たちのスキルアップも大切だと考え、社会教育委員の皆さんで自主的に研修会を開催されたり積極的に社会教育に関わる研修会にも参加されたりし、見聞を広げておられます。

このように、日々ご尽力いただいている社会教育委員の皆さんは、浜田市の社会教育推進のために欠かせない存在です。今後も社会教育委員の皆さんと一緒に取組を行い、地域の課題について考え行動する方を増やしていきたいと思えます。



### 地域ぐるみで子供を育むためのネットワークを！

#### 浜田市教育委員会 派遣社会教育主事 星野明洋

浜田市教育委員会の派遣社会教育主事として2年目を迎えました。引き続き、今年度もよろしくお願ひします。

さて、突然ですが、『子供たちの1日の生活』を思い浮かべてみてください。子供たちは家で目覚め、朝食をとり、支度をして学校へ出かけます。学校では学習や活動などを通して様々なことを学びます。学校が終わるとそれぞれの放課後を過ごします。そしてまた家庭に戻り、家族とふれあいつつ、また次の朝を迎えます。また長期休業日や休日等は、家族で過ごしたり、地域の中で過ごしたりしていることでしょう。

学校の学習や活動等に地域ボランティアの方が参加されたり、地域の方が放課後子供教室を開かれたり、PTA活動等で「親学プログラム」を開催したり…等、子供たちはたくさんの地域の方から支援をいただきながら日々を過ごしています。

浜田市では、「地域ぐるみで子供を育み、子供も地域も高まり合おう。」と題し、「学校支援」「ふるさと教育」「放課後支援」「家庭教育支援」の充実に向けて、「ふるさと郷育」や「はまだっ子活動支援運営委員会」の推進に努めています。そして、浜田市における中学校区を中心として、地域ぐるみで子供を育むためのネットワークづくりにも力を入れてきました。多くの校区において、このネットワークがつけられ、「うちの地域ではこんな子供を育てたい。」「こんな地域にしたい」「〇〇について、こんなことをしてみたいけどどうだろう？」といった内容の話し合いも行われ、日々の活動等に活かしておられます。子供を育むことを通して、地域の大人が協働し、地域が高まり合う姿はとても素敵なおことだと思えます。これからも、地域におけるネットワークづくりに向けて、自分自身もできる限りがんばっていかうと思えます。

## **学校という幹を支えることをめざして**

### **浜田市教育委員会 派遣指導主事 領家弘典**

今年度、浜田市教育委員会は大きく変化しました。学校教育課はフロアの西端に移動しました。訪ねて来られる方ご注意ください。学校教育課には新たに学力向上推進室が設置されました。以前からある児童生徒支援室も存続しています。室長と呼ばれる方が2人いますのでご注意ください。

児童生徒支援室は、今年度は3人体制になりました。昨年度で定年を迎えた上ヶ迫室長は嘱託職員として引き続きその任にあたっています。新たに石田指導主事を迎えて、私を含めた3人の体制です。

一方で生徒指導上の諸課題で相談を受けている児童生徒の数は、増加が続いています。昨年度の場合、3ケタに届いています。個別のケース会議等もしていますが、全ケースで同様の対応をしていくことは難しいところです。

S S Wについての問い合わせも急増しています。浜田市には現在2名のS S Wがいます。医療や不登校支援などそれぞれが得意とする分野を中心に活動しています。まず、浜田市教委の児童生徒支援室に相談をもらって、ニーズを検討してから派遣します。

教育相談機関、福祉機関、保健所など支援に関わる機関も広がり、相談等も増えつつあります。それらの機関につながっていくことが、多くのケースに有効なことだと思いますが、児童生徒や保護者がその支援を利用しようとしないうことで、足踏みが続いてしまうケースも多いです。

将来に見通しを持つことや、現状を肯定的にとらえること、支援の正しい利用を理解することなどの心構えを児童生徒や保護者にもってもらうことで支援の流れは大きく加速します。その心構えは担任の先生など信頼関係の深い方の支えによって育まれるものです。

学校という幹と支援機関の効果的な連携が進むように、今後ご協力をお願いします。



## **顔の見える関係づくりをめざして**

### **浜田市教育委員会 派遣指導主事 石田和範**



今年度、浜田市教育委員会に派遣指導主事（生徒指導担当）としてやってきました、石田和範といいます。初めての行政で、右も左もわからず、毎日が戸惑いの連続で過ごしているうちに、あっという間に3ヶ月が過ぎました。予想していた以上に関係機関や部署との連携機会が多くあり、様々な方が児童生徒・保護者・学校を支援していただいていることを再認識しています。親身になって関わってくださることに心から感謝しています。

さて、春先に、各種調査のまとめや聞き取りで、市内の多くの学校と連絡をとりました。電話で「初めまして」とごあいさつをさせていただく方もたくさんおられました。その時、妙な違和感を覚え、改めて思いました。「顔の見えるやりとり」って大切だなと。現場にいたときには、意識して取り組んでいたことですが、指導主事になってからも大切にしていかなければいけないことだと感じました。顔を見て、見せて、お話を聞かせていただきながら、相互の理解を深め、近くで一緒にいろいろなことを考えていきたいと思えます。機会や場面をとらえてなるべく出ていこうと考えていますので、時にはお忙しいところへお邪魔することもあるかもしれませんが、ご理解をいただければと思います。

最後に、『平成27年度いじめの問題に関する指導者養成研修（中国・四国ブロック）』に参加させていただいた際、「いじめを許さない文化をつくる」、「子供は先生と話したがついているよ」という講師のみなさんの言葉がとても印象に残りました。こちらも根っこは同じで、相手の立場に立って考え、顔を見て話を聞くことの大切さを説いておられる面もあると思います。指導主事として何ができるのか模索していきませんが、この「顔の見える関係づくり」を私自身心がけて、皆さんと共に大切にしながら、歩んでいければと思います。よろしくをお願いします。

## **学力向上推進室 始動！**

### **浜田市教育委員会 派遣指導主事 北川史信**

今年度から浜田市派遣指導主事として浜田市教育委員会に勤務することになりました。今年から新設された「学力向上推進室」という部署で名前負けしそうになりながら、この難題に取り組む日々が続いています。しかし、昨年度から学力向上を担当されている滝本先生も室長として引き続き浜田市の学力向上に努めておられますので、私としては頼もしい限りです。

さて浜田市では学力向上対策事業の大きな柱として『家庭学習の充実』『教師の授業力向上』『図書館活用教育の推進』を掲げ、浜田市の児童生徒がよりよい未来に向かっていけるよう各事業に取り組んでいます。その中の『教師の授業力向上』の事業として昨年度に引き続き、教員対象の一週間の福井市視察研修があり、先日石見小学校の細川有紀教諭、国府小学校の竹田進吾教諭、浜田第三中学校の永岡靖教諭の3名が参加されました。



福井市視察研修での授業参観の様子

私も 22 日のみ参加しましたが、学校としての組織的な取組、また福井市や県での教科研究の充実、保護者の意識喚起に向けた取組など、事前に勉強していたこと以外にも示唆を受ける点がありました。そして浜田市として自信をもっていいと思われる部分もありました。本研修の詳しい報告につきましては、参加された先生の所属校で報告会が行われますので、ぜひその報告会にご参加ください。

他にも「家庭学習ノートコンテスト」や「図書館活用教育の推進校の指定」「調べる学習コンクール」等の取組も行っています。学校現場にお願いする部分が多いので、私の立場としては逆に学校からの要望にできるだけこたえていくことが一番の仕事かなと思っています。よろしくお願いします。

## **各市町の取組から ～邑南町～**

### **おおなん子供の集いを通して学んだこと**

#### **邑南町教育委員会 派遣指導主事 大屋裕二**

邑南町では、いじめのない学校づくりを進める子供リーダーを育てることを目的に『つながろう仲間！なくそういじめ おおなん子供の集い』を開催しました。町内の小学6年（複式校は5年も）と中学2年全員、約180名が集まり、3時間人とつながる楽しさや大切さを体験を通して学びました。

各学校から寄せられた子供の感想の中に、次のような感想がありました。



今日子供の集いがありました。最初は緊張していて自分の学校の人とはしか話せませんでした。でも、そのうち「緊張」が「楽しい」にかわりました。6人のチームになった時、中学生の人や他校の小学生とも話せるようになりました。今日の集いは私を変えてくれました。最初話せなかった私をどんどん話せる私に変えてくれたのです。コミュニケーションはとても大事だと気づきました。

ぼくは、今まで「いじめはいけない」とか「いじめはだめ」ということしか知りませんでした。でも、人と上手にコミュニケーションをとると、いじめは少しでもなくなると思います。そのために、友だちとも上手なコミュニケーションをとるように日ごろから自分でもがんばって意識したいです。

この集いのファシリテーターを務めた講師の方は、質問の例、あいづちの例を提示し、一人一枚のミニホワイトボードを使った活動をどんどん進めていられました。「つながりなさい！」と言う代わりにつながるための具体的な方法を体験しながら学んだからこそ、上記の子供の感想が生まれたのだと思います。「○○しなさい！」の代わりに……。子供の受け止めを知ることで、私はいろいろ考えを巡らすことができました。

## 幼児教育との連携 ①

「スタートカリキュラム」  
スタートブック配付！  
～学びの芽生えから自覚的な学びへ～

学校教育スタッフ  
指導主事 濱崎政寿

「スタートカリキュラム スタートブック」  
(教員向け)パンフレットが国立教育政策研究所  
教育課程研究センターから1月に発行され、各小  
学校・幼稚園に配付されました。(下記写真)



小学校には、新入生が幼児教育から小学校教育へと円滑に移行するために、特に生活科を中核として合科的・関連的な指導の工夫を進め、指導の効果を一層高めるために、スタートカリキュラムを編成・実施することが求められています。(小学校学習指導要領 総則P51)

### 【スタートカリキュラムとは】

小学校へ入学した子供が、幼稚園・保育所・認定子供園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学

校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

### 【なぜ、スタートカリキュラム？】

#### 《安心》

入学に際して、子供は期待と同時に不安を抱えています。幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びやすい環境づくりをしたりすることで、子供は安心して小学校での生活をスタートすることができます。また、先生や友達と関わる活動を通して、出会いの喜びや楽しさを感じることができます。

#### 《成長》

子供は、幼稚園・保育所等で、遊びを通して試したり、工夫したり、友達と協力したり、自分の思いを伝えたり、話し合いをしたりするなど、たくさんのことを経験しています。そうした幼児期からの学びと育ちを生かす活動や環境を意図的に設定することで、子供は自信や意欲をもって活動し、自己発揮できるようになります。

#### 《自立》

子供は幼児期に「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」につながる経験をしています。この3つの自立を基盤としながら、生活科を中心としたスタートカリキュラムを学校全体で検討し、編成することで、子供主体の学習活動を展開することができます。

このスタートブックは国立教育政策研究所ホームページ (<http://www.nier.go.jp/>) に掲載されており、ダウンロードすることができます。

小学校において、新入生が幼児教育から小学校教育へと円滑に移行するためには、幼稚園・保育所等と小学校が互いの指導内容を理解して、連携することが重要です。そのような意味においてもぜひ活用してください。また、小学校においては、低学年部だけでなく、全教職員がスタートカリキュラムについて理解することが重要です。校内研修においても活用してください。